

## くも膜下出血急性期脳血管 stent 使用例の合併症と Verify now 値の検討

富尾 亮介<sup>1)</sup> 赤路 和則<sup>1)</sup> 植杉 剛<sup>2)</sup> 美原 貫<sup>1)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[緒言]くも膜下出血急性期での脳血管 stent は適応外である一方、stent 併用の脳血管内治療が妥当と考えられる症例は存在する。

[方法]2017年4月以降に破裂1週間以内に脳血管内stentをやむを得ず用いた症例について、治療前の抗血小板投与、治療前後Verifynow結果、治療後DWI所見、術後新規神経症状、退院時神経症状を検討した。

[結果]破裂急性期に使用したstentは5例全例がNeuroform Atlasだった。後方循環系4例は嚢状動脈瘤3例と、後下小脳動脈の解離性動脈瘤が1例だった。前方循環系では、破裂前交通動脈瘤塞栓後coil逸脱にjack-upを要した1例だった。後方循環の全4例で治療前Aspirin 200mg, Clopidogrel 300mg (DAPT)がloadingされ、2例でOzagrel 80mgを併用した。全例でstent閉塞は生じなかったが、還流域に散在性のDWI高信号を認めた。1例で術後麻痺が生じたが退院時には全快した。治療直前～翌日にVerifynowを行った3例で、いずれもPRU高値認めた。ARUは2例で治療域だったが、いずれも術後DWI高信号を認めた。前方循環例では術前Prasugrel 18.75mg loadingでDWI高信号発生はなかった。

[結語]後方循環系でのDAPT loading下での急性期stent使用では全例で支配血管領域にDWI高信号を生じた。全例でPRU高値を認め、Clopidogrel loadingの効果は疑問である。Stent使用に伴う後遺症を認めなかったことから、開頭手術riskとの比較において、急性期stent使用は許容されうる。